

5歳児前期（4月～10月頃）

ねらい

- ◆ 互いの考えや思いを受け止め、友達とのつながりを感じながら自己発揮し、遊びを進めていく。
- ◆ 生活を進める中で必要なことに気づき、友達とやり方や決まりなどを考え、一緒に取り組む楽しさを味わう。

《関わり》

親しみ
自己発揮
共感
調整
など

- ・ 友達の考えを聞いたり、自分の考えを話したりして、言葉で伝わるうれしさを感じる。
- ・ 年下の幼児や地域の方との関わりを通して、親しみの気持ちや相手を思う気持ちをもつ。
- ・ クラスや学年の友達と一緒に活動する中で、友達とのつながりを感じながら自分の力を発揮する。
- ・ 友達と一緒に目的に向かって活動を進め、気持ちを合わせる心地よさや、やり遂げた満足感を味わう。
- ・ うまくいかなないことを通して、友達の思いや考え、提案に気づき、受け止めようとする。

《自立》

自信
判断
身だしなみ
礼儀
など

- ・ 課題活動の中で自分の行うことが分かり、見通しをもって自分の役割に取り組もうとする。
- ・ 分からないことなどを自分から聞いて、解決を図ろうとする。
- ・ やってよいこと、悪いことが分かり、自分なりに考え、行動しようとする。
- ・ 汗を拭くこと、衣服の調整、手洗い、うがいなどを、自分で気付いて行う。
- ・ 年下の幼児や地域の方との関わりの中で、すすんで挨拶をしたり、自分なりに相手に応じて接しようとしたりする。

《規範》

決まり
ルール
マナー
など

- ・ 園生活の決まりや、してはいけないことの意味が分かり、自分たちで知らせ合ったり確認したりして守ろうとする。
- ・ 保育者や友達と遊びのルールを確認したり、一緒につくったりし、ルールを意識して遊びを進めようとする。
- ・ ルールのある遊びの中で、友達と力を合わせることや競い合うことを楽しむ。
- ・ 当番活動や係の仕事など、生活の中で必要なことに気づき、自分たちで行っていくとする。
- ・ 危険なことを自分なりに判断し、安全に遊んだり生活したりしようとする。

保育者の関わりで大切にしたいこと

- 幼児の発言を肯定的に受け止め、安心して何でも言い合えるクラスの雰囲気をつくり、様々な出来事をグループやクラスで話し合っていく。
- 自分たちで考え、やってみたいと思えるような場を多く設定し、その中で自分の力を十分に発揮できるようにする。
- 幼児が互いの思いを言葉で出し合えるよう仲介し、友達の思いに気付かせたり、対処の仕方を伝えたりする。葛藤やつまづきを乗り越えていけるよう、励ましたり見守ったりしていく。
- 生活や活動への見通しがもてるように、図や表を使うなど示し方を工夫する。
- 進級して張り切っている気持ち、役に立ちたい気持ち、自分たちで生活を進めようとする気持ちなどを受け止め、実現できるように援助する。
- ルールのある遊びでは、困ったことを出し合ったり、ルールを確認し合ったりさせ、自分たちで解決していけるように意見を調整したり、見守ったりする。
- 自分たちで生活の仕方や決まり、ルールなどを考え、守っていく機会を設定し、守ることでみんなが気持ちよく生活できることを価値付ける。



家庭とともに

- 5歳児の規範意識の大まかな発達について、園での取組や家庭で大切にしてほしいことを合わせて伝え、園と家庭で共に「自律」に向けて幼児に働き掛けていけるようにする。
- 幼児の間で起こった出来事を通して、友達との関わりの中で育つことなどについて具体的に伝える。
- 幼児の話をしっかりと聞き、励ましの言葉を掛けるなどして、園と家庭がともに温かく見守り、幼児が自分の力で生活を進められるよう支援していく。
- 親子の触れ合いの機会を設定し、子供の成長の様子を見ることを通して、幼児の規範意識の芽生えを培うために、大人としてどのように行動するかを考えるきっかけとする。

地域へ出かけましょう ～幼児の経験を豊かにする～

【目的】 地域の施設や、催し物などに参加することが、幼児が様々な人と交流し、その場に応じた行動を経験する機会になることへの保護者の理解を図る。

【内容】

- 地域の催し物などの情報（町会のイベント、祭り、ラジオ体操、図書館や児童館等の情報など）をプリントにして、保護者会で配布したり、掲示板に貼ったりする。
- 散歩や遠足等を通じて学んでいる公共の施設での決まりやマナーを、幼児のエピソードを交えながら、保護者に具体的に伝える。
- 幼児は、信頼する大人の行動をまねながら場に応じた行動を身に付けていくことを保護者に伝え、地域等に出掛ける際に、振る舞いを意識してもらうように伝える。
- 親子で出掛けるとよい場所、出掛けるときの決まりやマナーで心掛けていることなど、保護者同士の情報交換の場を設ける。



こどものつばやき 「だってみんなのリレーだから」

みんなでリレーをしているときに、hちゃんがカーブで転びました。でも、すぐに顔をしかめながら立ち上がり、再び走り出しました。みんなは「hちゃん頑張れ！」と夢中で応援しました。

リレー終了後、「あんなに転んでも走れるなんてすごい。」「私なら泣いちゃうかも。」「あっぱれだね。」と、チームのみんながhちゃんを讃えました。すると「だってみんなのリレーだから。」とhちゃん。その言葉を聞いた友達は「hちゃんありがとう。」と言いました。リレーでは負けてしまいましたが、友達とのつながりを感じ、最後まで頑張る大切さを学んだひとコマでした。



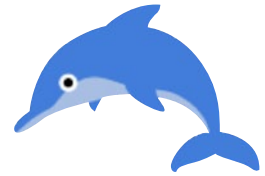
あんな場面 こんな場面 (指導例)

遊びが進まない場面を乗り越える

5歳児6月

水族館への遠足の翌日。共通体験を基に大まかなイメージを共有して遊べるように、保育者はきっかけとなる場や材料を設定しておきました。興味をもった幼児が自由に材料を選択して魚を作ったり、「イルカショーしようよ。」と誘い合い、イルカになったりして遊び始めました。

しばらくすると〇児が「これじゃあイルカショーができないよ。」と怒り始めました。イルカ役の友達が泳ぐことに夢中で、〇児の合図に気付いてくれないようです。



ここがポイント！

- **遊びが進まない場面では、一人ひとりが自分の思いを表して、乗り越えられるようにしましょう。**

「もう1回やろう。」「音楽、スタート！」

保育者が一人ひとりに話を聞くと「水族館で見たショーみたいになりたい。」という共通の思いがあることが分かりました。保育者が音楽をかけることを提案すると「この歌のところでジャンプすることにしよう。」「ここはこういう踊りね。」と相談が始まり、息が合ってきました。

その後、「もう1回やろう。」「音楽スタート！」などと声を掛け合い、繰り返し楽しんでいました。自分がやりたい役になって伸び伸びと表現する楽しさや、友達と合図や動きが合ううれしさを感じている様子が見られました。

〈他にもこんな姿が…〉

- P児が「お魚と一緒に写真が撮れるコーナーを作りたい。」と言うと、Q児が「水族館にそんなのなかったからダメだよ。」と言いました。P児は困った様子です。保育者がP児のアイデアを認めると、P児は張り切って準備を進めました。出来上がってくると、Q児は「面白いね。Pちゃん、撮って。」と言い、写真コーナーがにぎわっていきました。
- 数人の幼児が年少児を呼ぶために準備をしている最中に、他の幼児が年少児を呼んでしまいました。「まだ練習中なのに。」「勝手に呼ばないで。」など、それぞれが自分の思いを言いました。保育者は様子を見守りながら、準備ができたか友達に確かめてから呼ぶとよいことを確認しました。翌日、皆で準備を整えて年少児を招待することができ、年少児が喜ぶ姿を見て「大成功だね。」と友達と喜び合っていました。

- **大まかなイメージを友達と共有しながら、一人ひとりが十分に活動することは、相手の思いや考えを受け止めて行動することにつながります。**

自分たちで生活の決まりを考える

5歳児9月

みんなの大好きな絵本コーナーで5人の幼児が絵本を読んでいます。絵本コーナーのマットには、上履きを脱いで上がる約束になっています。

幼児は約束を守り、上履きを脱いで上がってはいますが、脱いだものはあちこちに散乱しています。



ここがポイント！

- 先行経験を生かして、生活の決まりを考えましょう。

「ここに並べるんだよ。」

保育者が絵本コーナーにいる幼児に「上履きがあちこちに転がっているけれど、どう思う？」と声を掛けると、慌ててそろえました。「先生に言われなくても、そろえられるとうれしいな。」と保育者が言うと、R児ははっと気付いた様子で、どこかに行きました。しばらくすると戻ってきて、「上履きを置くマークを付ければいいんだよ。」と言いました。トイレにサンダルを置くマークが付いていたことを思い出し、確認してきたようです。そして、画用紙に上履きの絵を描いて切り抜き、絵本コーナーの前の床に貼りました。

R児の作ったマークに気付いた幼児がその上に上履きを置くと、後から来た幼児はその横に並べて置いています。「ここに並べるんだよ。」と、友達に教える姿や、「これ、いい考えだね。」と言う姿も見られました。

〈他にもこんな姿が…〉

- 花壇に入ってしまう年少児に、入らないように知らせたい。
→ 球根や苗を植えたときに花や野菜の表示を作ったことを思い出し、「はいらないでね」という表示を作って立てておく。
- クラスのボールが、使った後に見付からなくなってしまうことが多い。
→ ボールが入る空き箱を見付けて、「ぼおるおきば」と表示をし、クラスの中に置き場所を作る。

- 必要感をもって自分たちで考えたり決めたりすることで、守ろうとする意識が高くなります。
- 園生活の決まりを守って行動することは、公共のマナーを守ることにもつながります。